

令和2年度学力向上推進（ふくぎ じんぶなープラン）の取り組み報告書

園（所）名 城岳こども園

4 充実している 3 おおむね充実している 2 あまり充実していない 1 充実していない (○印)

	具体的取組	評価	反省評価
1 園児一人一人が大切にされ、良さや可能性を認め合う学級経営	○一人一人を大切にした学級経営の充実が図れた。	3.6	園児の人数に対し職員配置8：1以下で、一人一人の声に耳を傾け、心に寄り添った学級経営が図れるようにした。支援児を含め日々の細かな記録を残すことで、担任同士の情報共有がしやすく、遊びの好みや苦手な事等子どもの実態にあわせた教育保育の中で「楽しい」と思えるような環境作りを心掛けた。また、当番活動等、様々な経験を重ねることで、自信に繋がるような取り組みを行い、安心して過ごせるようにした。しかし、時に「ちょっと待ってね」と待たせてしまう事もあったことが反省である。
	○教師や友達と関わり、認め合う学級経営が図れた。	3.4	「さん」付け呼称を徹底することで、相手を尊重し、互いに認めあえる環境を整えた。活動の中でチャレンジカードを通して友達と競い合ったり、刺激を受けながらも共に認め合う環境を作り、教諭や友達と困った時には助け合える信頼関係の構築に努めた。こどもが主体的に活動できる様見守りながら、子ども同士で意見を出し合い、聞き合えるよう働きかけ、互いの良さに気付けるようにした。また小学校と連携した「ふわふわ言葉」を取り入れることで、言葉で認め合える環境も整えた。
2 「確かな学力」の向上	○遊びを通して主体的な活動を促す環境構成や援助の工夫をした。	3.2	園庭にコースラインを設置し、リレー等新しい活動の幅が広がる工夫を行い、子ども達の「楽しい」「やってみたい」という思いを大切に、季節に合わせた環境作りを行った。こどもと一緒に遊びこむことで、新しい工夫や、必要な用具が準備でき、遊びが展開していける環境を整えることが出来た。園庭での活動は充実していたが、室内の環境はコロナ対策を講じながらの為難しかった。今後は、感染状況を踏まえ、状況に応じた室内遊びの工夫をしていけるようにする。
	○言葉による伝え合いや文字に関する興味関心を育む援助の工夫ができた。	3.4	室内に50音表を掲示することで、自然とひらがなに関心が持てるようにし、時にはこども達で文字表記させる事で、文字に親しみが持てる工夫を行った。ひらがなに苦手意識がある子へは「ひらがなファイル」を作成し、自分のペースでひらがなに触れられるようにし、自分で書いた文字で手紙のやり取りを楽しむ姿が見られた。朝の会や、帰りの会を利用し発表する場を設けることで、相手の話に耳を傾け喜びを共有したり、聞いてもらいたい事を伝える楽しさを味わう体験を増やした。なかなか発表できない子も隣で言葉を添えたり、代弁してあげることで話の幅が広がり、自信へと繋がったように感じられた。
	○身近な人に親しみ、関わりを深め愛情や信頼関係を育む援助の工夫ができた。	3.0	新たに厨房が出来たことで、給食・おやつ配膳・下膳の際の挨拶等での人との関係性に工夫できた。コロナ感染拡大予防から、外部との交流がなくなった代わりに、園で働く職員への声かけを積極的に行った。仕事の内容を伝えたり、感謝の気持ちを伝えたりと関係が深められるよう働きかけることで、園生活に対する安全や安心へと繋がっているように見られた。

	○健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくような援助の工夫ができた。	3.3	各行事・長期休業前後など必要に応じて家庭での過ごし方や外遊び、交通ルール等を話し注意喚起を行った。月に1度行う避難訓練を通して自分を守る方法・行動がとれるようになった。今年度は、コロナ感染症感染拡大防止による「新しい生活様式」への取り組み等戸惑った1年だった。コロナ感染症に関する家庭との連携が重要課題となり、様々な掲示や伝達等、安心安全に過ごせる工夫や、日々の積み重ねにより、子ども自身で自ら意識していけるようになってきた。
3 基本的な生活習慣の形成	○「食べて、動いて、よく寝よう」の取組の工夫をした。	3.2	登園時を利用し、家庭での過ごし方を聞き取りしながら、個々に合わせた園での過ごし方に配慮した。朝のラジオ体操やマラソン活動へ取り組み、体を動かす心地よさを感じられるようにしている。沢山動かすことで食事美味しく進むことを実感できるような言葉かけの工夫も行う。「休憩タイム」を取り入れ「静」と「動」の大切さも知らせる工夫を行ったことで、子ども自ら休息を取る姿も見られるようになった。雨天時はクラスでホール使用の時間を配分し、雨の日でも体を動かせる工夫を行った。
	○家庭と連携し、望ましい生活リズムの確立を図った。	2.7	生活週間アンケートを活用し、改善の必要な子へは個人面談等を通して生活改善を図った。今年度は、自粛生活が続きななか生活リズムが整わず、遅刻や居眠り等が見られた。登降時、積極的に保護者への声かけを行い、園と家庭とで情報を共有しながら生活リズムの確立を図ったり、子ども自身で気付けるよう日々の声かけによる意識づけを行った。
	○規範意識やマナーを身につける援助の工夫ができた。	3.0	積極的に挨拶をしたり、靴を脱いだら揃えたり、マスク着用の仕方等、教諭が手本となり、常に気付ける声かけを行う事で、子ども自身が自ら行えるようにした。また、遊びの中から順番を守る等ルールを守る大切さを知らせていった。コロナ感染症感染拡大防止により、子どもと食事を摂ることが出来なくなり、細かな食事指導は難しかったが、マスクの着脱や消毒の仕方、飛沫防止策等子どもが意識していけるような指導を日々行った。
	○「食」への関心を高める保育の工夫を図った。	3.4	園の菜園で、自ら植え、育て、収穫した野菜を、自園調理で提供する事で食への興味、関心が高まった。野菜の生長を身近に感じ、収穫し食する経験を増やすことで、食べる喜び、感謝の気持ちが芽生える姿が見られた。一方で野菜が苦手な子への声かけの工夫も必要だと感じた。今年度は、コロナ感染症拡大防止により「クッキング」が行えなかったのが残念だった。
4 マ ネ ジ メ ン 学 力 向 上	○計画的な園内研修を実施し、保育に生かすことが出来た。	3.4	園内研修では、担当がテーマに基づき発表し知識を共有することで、日々の保育に活かすことが出来た。毎月行う支援会議ではクラス以外の子への情報も共有でき、全職員で統一した支援を行う事が出来た。園内研修では、参加した全職員が発言することで、各々の持っている課題や、考えを皆で話し合い解決していく事で、日々の教育保育への質向上へと繋げている。

	<p>○PDCAサイクルを活用し、日々の保育改善と安全管理を行った。</p>	3.1	<p>週日案で週の振り返り、職務会では月の振り返りを行い評価、改善を図りながら、教育保育に取り組んだ。週に1度の朝礼の内容が十分に伝わっていなかった事もあったので、確実に全員への周知が行えるようにする。厨房も週に1度の給食朝礼や月に一度の給食会議で、保育現場の声を常に厨房に届けながら、日々の安心安全な給食提供に努めた。月に1度の安全点検や避難訓練で上がった課題は早期解決を心掛け、安全管理に努めた。</p>
	<p>○保育記録をもとに、保育カンファレンスを行う等、幼児理解を深めることができた。</p>	2.7	<p>日々の細かな保育記録により、スムーズな情報共有を図ることができ、子どもの実態把握へと繋がった。週に1度の朝礼で直近の情報を共有することで、共通理解、共通認識の下、教育保育を行った。話し合いを重ねながら、幼児理解が深まるよう努めていく。</p>
	<p>○保育者同士による保育参観を行い、保育の質の向上が図られた。</p>	3.1	<p>本年度より取り組むことが出来た。他クラス職員の良い所を取り入れたり、助言により気付きや反省することが出来自分自身の保育を見直すきっかけとなった。実際に行う事で保育参観の重要性を認識できた。積極的に意見交換することが出来、保育参観の重要性を認識できた。今後も継続していく事で、教諭の質向上へと繋がることが実感できたので、より良い教育保育を目指し継続していく。</p>
総合評価	<p>14項目の平均：3.2</p>	反省評価	<p>コロナ感染症感染拡大防止により様々な行事が思うように出来ず残念だったが、コロナ禍でも、子ども達が楽しく園生活が送れるよう全職員で工夫しながら教育保育が行えたのが良かった。「ふくぎじんぶなプラン」への取り組みも、改善を図りながら少しずつ定着してきており、職員同士の連携・情報共有も学力向上に繋がることが再確認できた。子供の実態把握に努めながら、小学校への円滑な接続を目指して、家庭と園と小学校の連携を密にしていけるよう、コロナ禍での取り組みを工夫する。</p>